「九州」2階級制覇

またしてもプレーオフ

《第４６回九州グランドシニア選手権》

通算４オーバー　１４８

佐藤　憲一（大分、７３歳）

そう言えば、あの時も同じだった。５年前、ブリヂストンＣＣ（佐賀）での「第２６回九州ミッドシニア選手権」。佐藤は同じ大分の坂本一馬（大分サニーヒル）との６ホールに及ぶプレーオフを制し、初の「九州」のタイトルを獲得した。そして、今回もプレーオフで勝利した。

「プレーオフは負けていないね」と佐藤が指折り数え始めて「大分県内でも２度あるな」。トータル４勝無敗というわけだ。「これで２階級制覇。榎に続いたし、榎に顔向けできる」。榎とは大分県の６０代プレーヤー、榎隆則（大分中央）の

こと。今年の九州ミッドシニア（グランドチャンピオン）で優勝し、九州シニア２連覇と２つの「九州」のタイトルホルダーである。その後輩に肩を並べたのだから、佐藤も胸が張れる。

「伊都にリベンジしたかった」。昨年、伊都ＧＣで開催された九州ミッドシニアで佐藤は初日６位タイでスタートしながら、２ラウンド目の最終日に８２と崩れ、結局１２オーバー１５６のスコアで２６位タイ。全国大会出場も逃した。今回の優勝は自身の中でも収まりがついた。

なぜ、プレーオフに強いのか。それは精神力の強さかもしれないが、今回はツキもあった。最終日のバックナインの１０番ロングで第３打がバンカーにつかまった上に１度では出せずにダブルボギー。「あれで終わったな。５位以内を目指そう」と諦めていたところ、他の選手も伸びていなかった。さらに、村上義春（皐月）、村川米蔵（八代）との３人のプレーオフでは、佐藤が「ラッキー」と叫んだ場面があった。プレーオフは１８番ミドルから１０、１１番…と行われる予定だったが、１ホール目で佐藤が下から３ｍのバーディーパットを沈めて決着がついた。その時のボールの位置が本戦で同組の吉野武司（肥後サンバレー）の状況と全く一緒だったという。佐藤は迷いなく、３ｍを決めた。

７３歳になってもドライバーの飛距離は２３０～２４０ヤードを誇り、飛ばし屋の１人と言われる。中学時代は地区の駅伝大会に出場し、マラソンで有名な１学年下の宗兄弟と競いあったりもした。地元の三重農高（２００８年閉校）農業土木科を経て、大分県庁へ。県庁では草野球をしていたが、スライディングなどにより擦り傷などが耐えないため、夫人からストップがかかり、ゴルフに転向。２８歳の時である。現在は大分県津久見市にある小代築炉工業㈱の営業部長の肩書で週２日の勤務をしながら、ゴルフと向き合う。

これまで全国大会には数多く出場。昨年は日本グランドシニアで３位に入った。優勝者とはわずか２打差。今回は九州チャンピオンとして臨むことになる。「取りてえけどなあ」。佐藤が目標とする榎は２０１６年に日本シニアを制した。榎に続いて行くには「日本」というタイトルが欲しいところである。

《写真は優勝の佐藤㊥を挟んでプレーオフで戦った村川㊧と村上㊨》

《伊都GC》